

没後130年「井上安治」展

会期:2019年4月2日(火)～6月23日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2019年度第一回企画展として、2019年4月2日(火)から6月23日(日)までの期間、『没後130年「井上安治」展』を開催します。

元治元年(1864)に浅草に生まれた井上安治(いのうえやすじ)は、「光線画」の作品で人気を博していた小林清親へ15歳で入門し、明治13年(1880)には早くも作品を発表しました。

師の作風を模倣しつつも自身の感性で捉えた東京風景を表現し、師の清親が「光線画」を手がけなくなった明治14年(1881)以後も作品を描き続けました。

また代表作のひとつに明治14年(1881)から没年まで手がけた、134点の作品を数える「東京真画名所図解」と呼ばれる一連の作品では、開化東京の風景を題材に取り上げて描きあげました。明治17年(1884)からは、「探景」(たんけい)の画号を用いて三枚続きの開化風景や教訓画、時事報道関係、相撲絵なども描くようになりました。しかし明治22年(1889)に26歳の若さで急逝し、その活躍も終わりを迎えました。

展示会では井上安治が描いた開化東京の様子を取り上げた作品を中心に、亡くなるまでの10年あまりの活動時期に描かれたさまざまな分野の作品とともに紹介します。

最後に、この展示会を開催するにあたり、資料と情報を提供いただきました方々に、心よりお礼を申し上げます。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

【井上安治略歴】

元治元年(1864)に江戸浅草並木町に、川越の太物問屋である高麗屋出身の父親、井上清七の長男として生まれ、本名は安治郎(やすじろう)といわれて、姉と弟の米吉の兄弟がいました。

明治9年(1876)の13歳の時に父親を亡くし、幼少の頃より絵を描くことが好きで、最初は月岡芳年へ、明治11年(1878)に小林清親へ入門し才能を開花させました。

師清親の後押しの下、17歳の時に版元福田熊治郎から「浅草橋夕景」、版元松木平吉から「新吉原夜桜景」「代官町之景」の3点の作品を発表し、以後様々な光の陰影を表現する東京風景を描きました。

また四つ切判の「東京真画名所図解」の名で呼ばれる、134点の東京風景を描いた作品も手掛けました。明治17年(1884)に版元より「探景」(たんけい)の号を受け、三枚続きの作品を手掛け、開化風景の他、時事報道関係、皇室・憲法発布に関する題材など、様々な分野の作品を描き多忙となるなか、明治22年(1889)9月14日に婚約者の印藤ますを遺し、脚気衝心のため26歳の若さで急逝しました。

師の小林清親はその死を悼み、霊前に

ちからとたのむ探景をなくして
『都(つ)えおれてちからなき身や萩の枝』

という一句を手向けました。

浮世絵研究家の樋口弘氏が戦前に行った調査によると、最初墓所は浅草の浄正寺にあり、昭和4年(1929)に甥の代に父親の出身地である川越に移され、現在墓所は川越の行伝寺にあります。その墓碑には「井上探景墓」と脇に小さく刻印されています。

井上安治の人となりについては、あまり記録に残っていませんが、明治の頃よりジャーナリストとして活躍した鶯亭金升(おうてい きんしょう)が、戦後間もない頃に明治を回想して著した書籍の中に、安治のことについて紹介した一文があります。彼の人となりについての一面が見てとれるのではないかと思います。

「六本指」

清親の門人に井上探景という青年があった。風景には天才の筆だと師も感じて探景の号を与えたが、他の絵はどうも粗忽をして笑われることがあった。折角の人物の指を六本描いたり、または試筆に去年の干支を描いたりした。

或年浅草で湯に入っていたら火事だと言われ、狼狽て石鹸を顔一面に塗ったまま衣服を着て帰宅して笑われた事もあった。時々滑稽を演じていたが、風景は真面目に好く描いた。

惜しい哉、若死をしたので世に知られずにしまった。

「明治のおもかげ」 鶯亭金升 著 より

【大判作品について】

デビュー作の「浅草橋夕景」から、「新富町新富座景」までの13点、明治21年(1888)発行の3点を合わせた合計16点が、横大判の東京名所絵として確認されています。

隅田川岸の風景を描いた「富士見渡シ之景」を初めとした、人物が全く見えない作品や、「銀座商店夜景」などの銀座煉瓦街の賑わう風景を描いた作品など、師の清親とは異なる構図を画題として取り上げ、安治自身の感性が作品の中で表現されています。



1)新吉原夜桜景
井上安治 明治13年(1880)



2)浅草橋夕景
井上安治 明治13年(1880)

3)代官町之景
井上安治 明治13年(1880)

4)浅草橋雨中之景
井上安治 明治14年(1881)

5)富士見渡シ之景
井上安治 明治14年(1881)



6)第二回勸業博覧会一覽
井上安治 明治14年(1881)

7)京橋勸工場之景
井上安治 明治15年(1882)

【「東京真画名所図解」シリーズについて】

東京各所風景を四つ切判のサイズで描いた、総計134枚からなる「東京真画名所図解」と呼ばれるシリーズの作品は、明治14年(1881)の両国大火の焼け跡を描いた作品から、明治21年(1888)に開業した洲崎遊郭が描かれている作品など、安治が活躍した期間を作品の大部分が網羅しています。

作品の構図は、全体の約4割が清親の作品に倣っています。残りの約6割が安治自身の視点で捉えた東京風景を描いた作品です。

また、自身の大判作品の構図を四つ切判として表現した作品もあり、今企画展ではそのうちの2点を展示紹介いたします。

8)東京真画名所図解 竹橋内
井上安治 明治14-22年(1881-89)



9)東京真画名所図解 浅草橋之景
井上安治 明治14-22年(1881-89)



10)銀座商店夜景
井上安治 明治15年(1882)

11)京橋松田の景
井上安治 明治17年(1884)

12)新富町新富座景
井上安治 明治17年(1884)

13)皇城二重橋
井上安治 明治21年(1888)

14)新吉原夜桜之景
井上安治 明治21年(1888)

15)吾妻橋
井上安治 明治21年(1888)

【中判作品について】

安治の作品のサイズは、大判や四つ切判、三枚続きなどの作品がありますが、展示作品は中判の作品です。作品は中判横二丁掛で制作され、下面に配置された作品の枠外に版元などが記載されていたと考えられます。

安治の中判の作品は「芝増上寺」「浅草観世音」「愛宕山」「永代橋」「九段招魂社」「上野東照宮」「向島」「両国橋」があると言われ、出版は展示作品で確認できるように、明治16年(1883)頃と考えられます。この年は横大判の東京名所絵は1枚も出版されておらず、翌年の明治17年(1884)からは、「探景」の号を用いるようになるなど、作風の転換の時期に当たるとは考えられます。

16) 九段招魂社

井上安治 明治16年(1883)

17) 向島

井上安治 年代不明

【清仏戦争について】

18) 清佛戦争図

井上安治 明治17年(1884)



19) 新よし原はん栄之図

井上安治 明治18年(1885)



20) 日本橋区大伝馬町参丁目 大丸屋呉服店繁栄図

井上安治 明治19年(1886)

【教導立志基について】

21) 教導立志基 兆殿司

井上安治 明治19年(1886)

【浅草橋・両国橋図について】

作品は浅草橋付近と浅草寺付近の風景を、鳥瞰図のように描き、上下二段に分けて配置された作品です。上段の浅草寺付近を描いた作品は、明治時代には焼失していた雷門が描かれ、下段の浅草橋付近の風景では、明治17年(1884)に鉄橋に改架された浅草橋が描かれています。

作品内の発行年表記は「明治十__年」と空白がありますが、画家の木村荘八は自身の著書の中で、この作品右の二階に色ガラスが入った建物が牛肉屋「いろは」第八号支店で、自身の生家であると記しています。店の開業は明治19年(1886)と言われていることから、作品はこの年に描かれたと考えられます。

22) (上) 浅草観世音境内細図

(下) 両国橋及浅草橋真図

井上安治 年代不明△



23) 東京上野高崎街真景

井上安治 明治17年(1884)■

24) 東京劇場千歳座之景

井上安治 明治17年(1884)△

25) 彫画共進會内 両国煙火図

井上安治 年代不明■

【国会仮議事堂について】

26) 大日本帝国 国会仮議事堂之図

井上安治 明治21年(1888)

27) 東京名所之内 吾妻橋新築之図

井上安治 明治20年(1887)

【憲法発布御通輦之図について】

28) 憲法発布御通輦之図

井上安治 明治22年(1889)

【絵双六について】

29) 皇国泰平寿語録

井上安治 明治20年(1887)



30) 憲法発布式大祭之図 大日本東京 吾妻橋真図

井上安治 明治22年(1889)△

31) 枢密院會議之図

井上安治 明治21年(1888)■

32) 對抗運動演習之図

井上安治 明治18年(1885)△

33) 大日本東京 吾妻橋真画

井上安治 明治20年(1887)■

34) 九段坂上 靖国神社庭内真図

井上安治 明治21年(1888)

【「日光山内名所」シリーズについて】

明治21年(1888)に安治は、版元の片田長治郎と鬼平金四郎より、日光の滝を主体に、山内の名所と紹介文を配した作品を描いています。安治が日光を訪れたかどうかは不明ですが、師の清親は明治13年(1880)6月に日光へ行き、描いたスケッチが残っています。また左上の山内の名所と同じ構図の作品を、清親は

「晃山名跡家つと」という冊子で描いています。安治はこの他にも前年に、版元の鬼平金四郎から日光東照宮境内を中心に描いた日光の名所図も手掛けており、日光は東京以外の場所を題材に、複数の作品を描いた珍しい地と言えます。

- 35)日光山内名所 華巖瀧 井上安治 明治21年(1888)△
 36)日光山内名所 湯湖瀧 井上安治 明治21年(1888)■
 37)日光山内名所 龍頭瀧 井上安治 明治21年(1888)△
 38)日光山内名所 霧降瀧 井上安治 明治21年(1888)■

【引札について】

- 39)大黒屋引き札 井上安治 年代不明
 40)新発明器械製 漆廣告 井上安治 年代不明
 41)日蓮大菩薩真実傳 井上安治 明治19年(1886)

【相撲絵について】

相撲絵とは、様々な画題の中でも力士の土俵上の取り組む姿や、立ち姿などを描いた作品です。作品「豊歳御代之栄」は、取組や取組表から明治14年(1881)5月9日に麻布の島津家別邸で催された、天覧相撲の様子が描かれています。この作品で安治は「方円舎安次」という、師の清親が用いていた「方円舎」を使用しています。天覧相撲の催された時期や、他の三枚続きの作品では見られない「方円舎安次」と記されているところから、明治14年(1881)頃に制作された安治初期の三枚続き作品が考えられます。



- 42)豊歳御代之栄 井上安治 年代不明

- 43)東京 小錦八十吉 井上安治 明治21年(1888)△
 44)加州 若湊祐三郎 井上安治 年代不明■
 45)大角舐取組図 井上安治 明治22年(1889)

【組立絵について】

- 46)組上 隅田川待乳山雪景 井上安治 明治17年(1884)

【おもちゃ絵について】

- 47)小学運動図解 井上安治 明治20年(1887)

【挿絵について】

- 48)芭蕉翁行脚怪談袋 挿絵 井上安治 明治19年(1886)
 49)東洋義人百家傳 第二帙上 挿絵 井上安治 明治17年(1884)

【研究文献について】

井上安治についての研究文献は、小林清親に比べて少ないですが、歌人であり美術史家でもあった吉田漱(よしだ すずぐ)氏や、明治錦絵について多くの著書がある樋口弘(ひぐち ひろし)氏が文献を記しています。吉田氏の記した「夭折の絵師井上安治」が掲載された書籍では、安治の一生とあわせて手がけた作品についての考察がされており、樋口氏は戦前に許嫁であった井上ます氏に聴き取りを行い、「明治風景版畫家井上安治の生涯」などで紹介しています。いずれも関係者に直接取材をしてまとめられた貴重な記録です。今回は、「夭折の絵師井上安治」の草稿と、「明治風景版畫家井上安治の生涯」が掲載された『「美術史学」83・84号合併号』を合わせて紹介します。

- 50)「夭折の絵師井上安治」草稿 吉田 漱 昭和43年(1968)
 51)「明治風景版畫家井上安治の生涯」 樋口 弘 昭和18年(1943)

※展示期間中、一部作品の展示替えを致します。展示替え作品は、作品後ろの「記号」を参照願います。
 前期展示: 4 / 2 ~ 5 / 12 記号「△」
 後期展示: 5 / 14 ~ 6 / 23 記号「■」

おもな参考文献

「清親と安治」光線画の時代 山口県立萩美術館・浦上記念館 2012年
 井上安治 版画集「明治の東京風景」阿部出版(株) 2018年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町 4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》